

ノバスコシア州及びハリファックス広域自治体 廃棄物資源管理戦略現地調査報告 ～経緯・訪問先機関・交流・議論の概要～

池田こみち（環境総合研究所）

1. この間の経緯

- ・2001年ごろからセントローレンス大学ポール・コネット博士より Nova Scotia における Zero Waste Strategy の紹介を受け、情報収集をはじめ。
- ・2003年3月、池田直樹弁護士（ごみ弁連）の紹介で N.S.州環境労働局廃棄物資源管理担当マネージャー Barry Friesen 氏とコンタクトをとり、青山・池田と広田次男弁護士（ゴミ弁連）の3名で予備調査のために現地を訪問。5日間滞在し、主要な施設を視察するとともに、州及びハリファックス市の行政担当者、NPOである RRFB (Resource Recovery Fund Board Inc.) 担当者、企業関係者、NGO 関係者との情報交流を行った。
- ・2003年8月6日、環境総合研究所として N.S.州から Barry 氏を招聘し、在日カナダ大使館と環境総合研究所の共催による国際特別シンポジウム「真の循環型社会の実現に向けて～ノバスコシア州の資源管理戦略に学ぶ～」をカナダ大使館シアタールームにて開催。北は北海道から南は福岡までの NGO 関係者、弁護士、企業関係者、大学・研究機関関係者等 240名の参加を得る。Barry 氏は滞在期間中、家電リサイクル工場、東京湾中央防波堤最終処分場、東京都新江東清掃工場などの施設を見学すると共に、環境省廃棄物・リサイクル部リサイクル推進室長へのインタビューなどを実施し8月10日に帰国。
- ・カナダ大使館でのシンポジウムをイベントと位置づけ、2003年9月1日～7日、28名による現地視察調査団（団長：青山貞一）がノバスコシアを訪問。同州初の海外からの大型環境視察団として、大歓迎を受け関連施設の見学及び関係者との意見交換を行った。ツアー参加メンバーは、産婦人科医師、環境 NGO 6名、環境弁護士6名、大学関係者4名、地方議会議員3名、ジャーナリスト、自治体職員、税理士、政策塾卒業生2名、国会議員秘書、など多様。

2. 訪問先及び交流・議論の概要

9月1日（月）ニューアーク経由で深夜ハリファックス着。ハリファックス空港入国管理審査で若干混乱、ホテル着は夜中12時を回っていた。宿泊はハリファックス市の史跡でもある Citadel 要塞に隣接する Citadel Halifax Hotel。

9月2日（火）午前中は自由行動市内見学等

午後2時～4時半 Nova Scotia 州政府 環境労働局でオリエンテーション。

Barry Friesen (Solid Waste-Resource Manager) と Catherine McCarthy (Director of Communications RRFB Nova Scotia) からこれまでの経緯や成果、市民参加、環境教育面から説明を受ける。

夕方6時～8時半 Citadel Museum North Garrison Room にて歓迎レセプション

カナダ側参加者：連邦政府から外交経済省環境大使 Honourable Gilbert Paranet

州政府から環境労働局長官 Honourable Kerry Morash 以下同局幹部及び職員
州内関連機関、民間企業、NGO 関係者等約40名が出席。大使、長官の歓迎の挨拶を受けた後、青山団長から参加者紹介と答礼を行い、立食パーティ

9月3日（水）午前：自然博物館にて NGO シンポジウム開催

カナダ側参加者（NGO）： Jennifer Graham, Ecology Action Centre

Angela Griffiths, Clean Nova Scotia

Peggy Crawford, Eco-Efficiency Centre

Emily McMillan, Sierra Club

Terry Henley, Community Monitoring Committee

Fred Wendt, Community/Regional Planning, Halifax 市

池田が日本におけるゼロ・ウェイスト政策の必要性と背景についてプレゼンテーションを行った後、カナダ側 NGO からそれぞれの活動内容や市民参加の状況等について報告が行われ、引

き続き、日本側の参加者との間で活発な質疑応答・意見交換が行われた。

午後：コルチェスター郡のタイヤリサイクル工場と資源リサイクル工場を見学

9月4日（木）終日、ハリファックス市内の関連施設を見学。ハリケーンの接近で雨模様。

午前：ミラー堆肥化工場及び New Era 堆肥化工場

人口36万人のハリファックス広域市のほぼすべての生ゴミを両工場で処理している。ミラー社では、荏原製作所製の機械を使用しており、5年間故障もなく信頼を得ているとの説明に日本側参加者は苦笑。いずれの工場も悪臭はほとんどなく、効率的に堆肥が製造され、主として民間事業（造園業や土地造成事業等）で使用されているとのこと。品質が管理された堆肥が市場に受け入れられている実態にびっくり。一般家庭からの生ゴミ・庭ゴミだけでなく、レストラン・スーパーなどの生ゴミも有償で引き受け採算が取れている。

昼：飲料容器や使いかけペンキの収集拠点（エンバイロ・デポ）の一つを訪問。

若い夫婦二人で経営しているとのことで、市民が持ち込んだ瓶・缶類などが整然と積み上げられていた。市民は通常、車でたまった容器類を運び込み、本数を申告してデポジット金の返却を受ける。

午後：①ミラー社が経営する資源リサイクル工場見学

各家庭から出された「資源化可能なごみ」（ブルーのポリ袋）を収集し、資源ごとに分別してリサイクル原料として販売する。デポジット容器も1割程度含まれる。

②オッターレイク最終処分場見学

各家庭・事業所から出された「資源化不能なごみ」（黒のポリ袋）を収集し、生ゴミ、資源化物を取り除き資源化するとともに、残りのごみを粉砕・熟成堆肥化した上で臭気を除去し、最終処分場に埋め立てる。

9月5日（金）紙資源のリサイクル関連施設を見学

朝：大手スーパーマーケット「ソビーズ」を訪問。担当者から説明を受けたあと質疑応答、その後バックヤードや店内を見学。生ゴミは鍵をかけた収集容器で管理、堆肥化施設へコンテナで数日おきに輸送。店内での生ゴミ分別状況やレジ袋回収ボックス等を見学。

午前：Scotia Recycling Plant（スコシア・リサイクル工場）見学。段ボールに再生するための古紙を回収し、品質別に仕分けて段ボールメーカーへ販売。

午後：Maritime Paper Products（マリタイム紙製品製造工場）見学。再生紙から段ボールを生産し、顧客の注文に応じて段ボール箱を製造する工場を見学。製品はキューバ、アメリカへも輸出される。

CKF Inc. (株式会社 CKF) 紙製容器製造会社を見学。古紙を溶かした原液を型で抜き、ファーストフード用トレイや卵パック、果物用梱包材などを製造・販売。

Minas Basin Pulp and Power（マイナスベースンパルプ・電力会社）見学。古紙から段ボールの原料となる再生古紙を製造。Maritime Paper Products 等へ出荷。

上記の各民間企業はいずれも系列会社であり、効率的な事業展開を行っている様子。各施設とも担当者から概要説明を受けたあと、10名ずつのグループに分かれて施設内を見学。

Minas Basin は、ノバスコシア北部の入り江。世界で最も潮位差の大きい湾として有名。その地名をとったのがパルプ工場。同社では、河川の上流にダムをもっており、電力の1/3をまかなっている。

夜：お別れレセプション（Grand Pre Acadian Village Blomidon Inn にて）

<カナダ側出席者>

ノバスコシア州環境労働局環境監視コンプライアンス部長 Gerard MacLellan 氏

同局廃棄物資源管理部門 Barry Friesen ご夫妻

Bob Kenny ご夫妻

ハリファックス市廃棄物削減コーディネータ Jim Bauld ご夫妻

4日間の公式日程がすべて終了し、田舎町の古いホテルの食堂を貸し切り、ツアー参加メンバーと受け入れ側の Nova Scotia 州環境労働局主要メンバーとのお別れ晚餐会を開催。夜が更けるまで話がはずみ別れを惜しんだ。

9月6日（土）終日観光 Peggy's Cove から世界遺産の漁村 Lunenburg を見学。